



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



次年度のシラバス作成に向けて

歯学部長 宮崎 隆

本学では「社会に貢献する優れた医療人の育成」という建学の趣旨のもと、四学部が連携して教育改革に取り組んでいます。歯科医療や歯学教育を取り巻く環境が変化して、新しい歯学教育が求められています。本学においては、超高齢社会の国民の長寿健康に医療チームの一員として貢献できる歯科医師の育成を目指して、鋭意教育改革に取り組んできました。



昨年の7月に開催された文部科学省主催医学・歯学教育者のためのワークショップでは、1) 多様な患者の診療ニーズに対応できる総合的な診療能力の養成、2) 今後の地域医療の在り方を見据えた教育カリキュラムの充実、3) チーム医療の実践も視野に入れた教育等をテーマに討議しました。いずれも、本歯学部が取り組みを進めている内容です。

総合的な診療能力の養成については、歯科病院の診療各科の連携のもと、歯学教育研修センターの長谷川センター長を中心に診療参加型臨床実習のさらなる充実をはかり、総合的な診療能力を本学独自のiOSCA(山本委員長)で評価しています。技能だけでなく、臨床推論やコミュニケーション能力を含めて、本歯学部のコンピテンシーの到達を評価します。

チーム医療教育については、大学全体で、四学部の教育推進室が中心となり、全寮制をベースにした初年次教育を皮切りに、卒業まで学部間連携のチーム医療教育を推進してきました。このような教育は国内はもとより海外でも行われていません。歯学部では、5年次の学部間連携病棟実習をさらに効果的に活用するために、低学年から関連ユニットの教育を強化することとし、次年度の3年次の「麻酔と全身管理」ユニットの時間数を増やし、片岡歯学教育推進室長のコーディネートのもと、新規に「チーム医療と口腔医学」ユニットを3年次と4年次に開講することにしました。昨年9月に、文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」で「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の要請」という取り組みが採択され、北海道医療大学、岩手医科大学と連携してIT教材の整備を進めているので、早速この新しいユニットに活用します。

地域医療教育については、これまでも向井教授が中心となり「社会と歯科医療」コースの中で長年教育に力をいれてきました。前述の「大学間連携共同教育推進事業」で地元歯科医師会と協同して地域医療教育のカリキュラムも整備する予定です。これは画期的な試みで、次年度は選択実習で3年次に地域医療実習を開講する予定ですが、近い将来、地元歯科医師会と協同で訪問歯科診療を含む地域医療の臨床実習に発展させたいと考えています。

次年度から、全学的に電子シラバスを導入します。時代のニーズにあった魅力あるカリキュラムを提供できるように、関連の皆様のご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

CBTが実施されました

CBT委員 荒木 和之

1月29日(火曜日)に、平成24年度共用試験CBTが実施されました。インフルエンザの流行がみられている時期であり心配して



いましたが、受験を希望していた4年生100名は欠席もなく全員無事受験しました。当日は旗の台校舎4号館600号教室を試験会場とし、学生は午前8時40分に集合し、全320問の問題に取り組みました。試験は6ブロックに分かれており、各ブロック60分で解答をおこない、最後にアンケートをして解散となりました。学生は終始緊張の面持ちで試験に臨んでいましたが、CBT事前説明会やCBT体験テストの経験もあって、大きな混乱もなく無事試験を終了することが出来ました。運営は、北川先生(実施責任者)、美島先生(副実施責任者)、坂井先生(サイトマネージャー)、馬谷原先生(サイトマネージャー)と私が担当しました。試験監督は午前・午後各3名のべ6名の体制でおこない、基礎系の先生方をお願い致しました。

当日は共用試験実施機構から東京医科歯科大学の柴田教授、福岡歯科大学の山崎教授がモニター委員として派遣され、実施状況を監視されました。試験終了後の反省会では、受験態度や実施状況など、全体的に良好でしたとのコメントをいただきました。

CBT実施にあたりご協力いただいた先生方・事務方の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

昭和大学退任のことば

口腔病態診断科学講座歯科放射線医学部門
岡野 友宏

このたび、昭和大学を退任することになりました。まずは昭和大学在職中に賜ったご厚誼に深く感謝申し上げます。皆様のご支援なくして、ここまで来ることはできませんでした。



私は昭和62年9月、昭和大学教授を拝命し、前任地の長崎大学から赴任しました。前任者の三崎鈔郎教授、志村秀夫教授の後を受けて、歯学部歯科放射線学教室の3代目でした。赴任当時は歯科口腔領域においてもCTが活用され始めた時期で、造影により口腔・頸部の詳細が見事に観察できるようになりました。当時の福原歯科病院長の英断でCTが導入されたときの喜びは何にも代え難いものでした。MRIが実用段階に入ったのもこの頃でした。昭和大病院や藤が丘病院に0.5Tの装置が導入されると同時に顎関節の撮像を開始しました。内外の施設に出向いては画像を持参して読影を教わり、また最新情報を仕入れることに熱中していました。平成3年の岡山・歯科放射線学会での講演、「頭頸部の筋膜・隙の画像解剖学的考察」はその集大成でした。

元来、私の研究テーマは大学院時代や米国出張を通じて、放射線画像の画質を定量化する方法の評価、画質と診断の正確度の関係というものでした。画質は主として線量に依存しますから換言すると、線量の低減と診断の正確度、どこまで線量を低減できるかともいえます。放射線画像は1990年頃からフィルムに代わり半導体センサーが利用され、デジタル化されていきました。一方で21世紀に入り歯科に特化した3次元撮影装置も開発されました。そこでも画質と線量との関係が私の主題でした。このほど導入の決まったPACSはその恩恵を広く享受するための必需品です。ですから私の最終講義は、「歯科におけるX線検査適正化への道」としました。関連項目が山ほどありますのでどのように整理できるのか不安でもあります。

平成19年から退任までの6年間、私は歯科病院長を務めました。医療や福祉・介護は人の根源に関わることです。医療費の効果的な活用を考えると、すべての人が基本的な医療や介護を受けられるシステムを構築するとともに、医療費の無駄を省きながら、特に高度ないし先進的な医療には自由競争を可能とする機会を作るべきです。日本の医療は普通の人々が普通に考えてこれがいいと思える方向がまさに進むべき方向、これが私の結論でした。

福島、私の心にいまだに突き刺さっています。今、高濃度廃棄物の処理施設をどこにどのように建設し、これを千年・万年という気の遠くなるような単位でどう管理していくかが問題となっています。日本には適した場所がないというのが常識です。その目処が全く立っていない今、原発の輸出などあってはならないことです。黒川清氏を委員長とする国会事故調報告は一読に値します。その序文で日本のエリートを厳しく批判しています。想定できたはずの事故が起きた理由は、政界、官界、財界が一体となり、国策として共通の目標に向かって進む中、新卒一括採用、年功序列、終身雇用といった官と財の際立った組織構造と、それを当然と考える日本人の思いこみが経済成長に伴い、自信が次第におごり、慢心に変ったこと、「単線路線のエリート」たちは前例を踏襲し、組織の利益を守ることを国民の命を守るよりも優先し、世界の安全に対する動向を知りながらも、安全対策は先送りしたことにあると断じています。社会変革がない限り、日本は再生しないと思います。

いま、昭和大学を退任するにあたり、これは単なる通過点に過ぎないのではありませんが、長いはずのない余生をどのように生きるべきかを考える機会となりました。矛盾だらけの世界を生きている以上、そのなかでも最善となるように知恵を発揮しなければならないし、そのためには広く世界とその歴史を眺める教養を身につけなくてはなりません。おそらく余生はそのために使われるべきだろうと考えます。

歯科医師国家試験が実施されました

D6チューター会議 佐藤 裕二

2月2-3日の2日間にわたり、蒲田の東京工科大学で第106回が開催されました。試験地は、北海道、宮城、東京、新潟、愛知、大阪、広島および福岡ですから、今回の東京工科大学での試験は、昭和、医科歯科、日歯、日大、日松、東歯、神歯、鶴見、松本などから多くの受験生が集まりました。

インプラント関係の問題が365問中6問もあり、英文の穴埋め問題も出題されました。国試の難化のなかで、他大学が卒業生を絞ってきている状況ですが、本学では学生のがんばりと教員の熱意で、乗り切りたいものです。会場前で学部長を筆頭に数名の関係者が会場入りする本学の受験生を激励しました。3月19日の発表を楽しみに待ちたいものです。



退任にあたって

スペシャルニーズ口腔医学講座地域連携歯科学部門
佐野 晴男

臨床・教育は好きだが研究は後回しの自分は、大学に居るべきではない、と18年居続けた前の大学で悟りました。以後は恥はかいても論文はほとんど書かず、臨床畑を歩いて来ました。そんな私が宮崎学部長、岡野病



院長より身に余るお誘いを頂き、平成21年4月に昭和大学の一員に加えていただいて、あっという間の4年間でした。赴任した年にわずか5人で出発した科でしたが、その後続々とまじめで優秀な若人が集まって、わずか4年で働き者集団が創れました。「先生は大学院生を採らないのですか？」と数多くの学生さんに尋ねられましたが、もともと在任期間が4年しかありませんでしたのでお断りしたのが残念です。皆さんの名前と顔も一致していないので無理だ、と固辞しましたが、平成22年には副病院長になってしまいました。力不足で申し訳ありませんでした。ただ、大学同期生の私がサブとなったためか、岡野院長がより穏やかになった、と何人かから言っていただきました。また、「先生が来てから元気が出ました」とも言われたのはお世辞ではないと信じています。この原稿を書いている時点で、院長とともに報道陣の前でフラッシュを浴びて頭を下げるような事態が起こらずホッとしています。

昭和48年に大学を卒業した頃、全国の歯科医の数は約3万人で希少価値でした。多くの歯科医は卒業後数年の修練を経て開業する道をたどりました。私も今までに何度となく開業を考えましたが、診療・経営のすべてを一人でこなす自信はなく、踏み切れませんでした。数々の職場を転々としましたが、どの職場にも仲間がおり、助言や手助けが得られました。医療の最前線で一人で働く開業医と比べて、はるかに心強い環境に居続けて来たのです。故に、開業医の方々に、心強さのお裾分けをせねばならないと思いで、病診連携に力を入れて来ました。開業医さんからの急患依頼は拒まない。忙しい診療の合間を縫って急患を受けることは、自分の腕と度胸と判断力そして評判を上げる、を信条としてきました。おかげで城南地区の歯科開業医の皆さんが困った時に思い出しもらえる存在となれ、「先生がそばにいてくれるようになってから、以前は手を出さなかった患者でも挑戦する気になった。先生は我々開業医の”駆け込み寺”だよ。」と言っていただけのようになれました。

昭和大学の学生や若手、中堅の歯科医師達は素直で真面目です。導き方次第で大きなエネルギーが

生まれ、良い方向に向かうと確信しています。先日乗ったタクシーの運転手さんが「昭和の歯科病院は腕は確かで親切だと評判だ」と言ってくれました。うれしくておつりは受け取りませんでした。

長続きする老後の趣味は退職前からじっくりと考え、育んでおかねばならないと申します。この4年間では忙しさでそれができず、退職後にゆっくり考えねばなりません。大学を卒業して歯科病院に至るまで、私は人との出会いに恵まれ続けて来ました。歯科医師になって今まで、見えない力で良い方により方へと導かれている自分を感じます。歯科医師人生の終盤に、昭和大学の皆さんとの縁が結べ、やりがいのある位置を与えて下さった宮崎隆学部長、岡野友宏病院長そして歯科病院、昭和大学の方々にこの場を借りて深甚なる感謝を申し上げます。ありがとうございました。

選抜Ⅰ期入試が実施されました

入試常任委員 山田庄司

平成25年度歯学部Ⅰ期、センターⅠ期の入学試験が1月24日(木)に東京会場(五反田TOCビル)、大阪会場(難波御堂筋ホール)福岡会場(南



近代ビル)の3会場で薬学部、保健医療学部の入学試験と同時に実施されました。歯学部の志願者は地方会場を合わせて、選抜Ⅰ期(50名募集)が340名(33%増)、センターⅠ期(10名募集)が選抜Ⅰ期との併願を含めて154名(43%増)でした。当日の欠席は選抜Ⅰ期が7名(2.1%)、センターⅠ期が6名(3.9%)でした。各会場では当該学部の教員や事務方だけでなく、医学部の教員や各学部のOBの先生方のご協力をいただき無事終了することができました。合格発表は選抜Ⅰ期が1月28日(月)に行われ、合格者80名(男子39名、女子41名)を、センターⅠ期が2月7日(木)に行われ、20名(男子12名、女子8名)の合格者を発表しました。

この後、平成25年2月24日(日)には選抜Ⅱ期、センターⅡ期、編入Ⅱ期の入学試験が予定されています。職員の皆様には今後ともご協力のほど、よろしく願いいたします。

	選抜Ⅰ期		センターⅠ期	
	H25年	H24年	H25年	H24年
志願者	340名	256名	154名	108名
受験者	333名	249名	148名	105名
合格者	80名	80名	20名	18名

OSCEが実施されました

OSCE委員会 委員長 菅沼 岳史

2月17日(日)に歯学部4年生を対象とする共用試験OSCEが、歯科病院において195名のスタッフ(教員146名、職員3名、SP38名、実施機構モニター2名、機構派遣外部評価者6名)で実施され、100名の学生が受験しました。即日集計の結果、全員が合格しましたが、各課題の到達度の低かった学生に対しては補講を実施する予定です。最後の反省会において、実施機構モニターから前日の評価のすり合わせやテストランの方法、マネキンの予備の設置方法などについて問題点を指摘されました。来年度に向けて検討したいと思います。週末の貴重な時間にもかかわらず、多くの教職員の方々にご協力頂きありがとうございました。

大学院歯学研究科入学試験が実施されました

大学院運営委員会 佐藤 裕二

2月16日に大学院歯学研究科春季Ⅱ期入学試験が行われ、27日には合格発表がありました。一般選抜14名(うち、昭和大学出身7名)、社会人特別選抜4名の合計18名でした。



12月8日に行われた春季Ⅰ期入試の13名(一般8名、社会人5名)と合わせて32名となりました。ちなみに過去4年間の推移は29, 29, 22, 41名でした。この学年からは、専門医養成コースも始まります。4月からは、研究者マインドを持って、研究、診療、教育に頑張ってくれることを期待しています。

トロント大学 Research day 2013 で発表しました

大学院4年(歯科補綴学専攻) 秋山 智人

2月10日～2月15日にかけて、カナダのトロント大学にて行われた「Research day 2013」に参加してきました。



本会は、トロント大学の学部生や大学院生が中心となり学内で行われている研究内容を発表するもので、昨年10月に行われた国立大学歯学部を中心に結成された先端歯学国際教育研究ネットワーク主催による「先端歯学スクール2012」で優秀賞を受賞し International 部門で他大学の大学院生を含め日本より3名選出され発表させていただくこととなりました。

学内発表ということで、学部生や大学院生が非常に

多く、とても自由で明るい雰囲気の中で行うことができました。質問も多く、自分の研究に興味を持ってもらえたということを実感でき、とても充実した発表時間となりました。

トロント大学は非常に広大で、建築物も歴史を感じさせるものがありました。滞在中は口腔生化学講座よりカナダへ留学している鈴木先生に案内してもらい、ナイアガラの滝やミュージカルの観賞など、とても貴重な体験をさせていただきました。

このような機会を与えてくださった上條教授、馬場教授をはじめとする各教室の先生方に心より感謝いたします。



認定医・専門医

広報委員長 井上 富雄

日本老年歯科医学会専門医

下平 修, 七田 俊晴, 桑澤 実希,
山口 麻子, 岡根 百江, 竹内 沙和子

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士

伊原 良明, 鈴木 重紀, 山川 道代,
山下 まどか, 古屋 七重

日本輸血細胞治療学会認定医

飯島 毅彦

行事予定

広報委員長 井上 富雄

3月 7日(木): 歯学部4年生OSCE追再試験

3月14・15日(木・金): iOSCA

3月15日(金): 昭和大学大学院修了式

3月19日(火): 卒業式

第105回歯科医師国家試験合格発表

3月25日(月): D2オリエンテーション
～29日(金)

3月29日(金): D5白衣授与式、オリエンテーション

4月 1日(月): D3、D4オリエンテーション
D3健康診断
D5健康診断(4月5日まで)

4月 2日(火): D6オリエンテーション
D2、D6健康診断

4月 3日(水): D4健康診断

4月 6日(土): 大学院入学式

4月11日(木): 入学式および入寮式

編集後記

口腔病理 山本 剛

1月から2月にかけて定期試験、進級試験、CBT、OSCEと学生の試験が続いています。大変お忙しい時期にも関わらず原稿をご執筆下さった先生方に心より感謝申し上げます。